

## 学 位 論 文 要 旨

研究題目

Associations between insomnia and central sensitization in cancer survivors undergoing opioid therapy for chronic cancer pain  
A STROBE-compliant prospective cohort study

( 慢性癌性疼痛に対するオピオイド療法を受けているがん生存者における不眠症と中枢感作との関連:STROBE 準拠の前向きコホート研究 )

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻 高次神経制御系

麻酔科学・疼痛制御科学 (指導教授 廣瀬 宗孝 )

氏 名 阿久井 千亜紀

慢性がん性疼痛を有するがんサバイバーにおいて、不眠症と中枢感作との関連性の解明が期待されているが、その関連は十分に調べられていない。そこで、オピオイド療法を受けている慢性がん疼痛のがんサバイバーの不眠症との関連性を特定するために、がんサバイバーのこれらの痛みの特徴を伴う不眠症を前向きに調査した。この研究は、2019年9月9日に兵庫医科大学倫理委員会(倫理委員会番号 3296)によって承認された。

参加者は、2019年9月から2020年8月まで兵庫医科大学病院の化学療法センターにおいて外来で化学療法を連続して受けたがんサバイバーである。また、オピオイド治療による期間が、3ヶ月以上の慢性がん性疼痛があった。不眠症と中枢感作との関連を確認するために、不眠症、中枢感作、疼痛特性に関する情報に加えて、いくつかの臨床データを調査した。がんサバイバーの不眠症は、アテネ不眠症尺度(AIS)の日本語版を用いて評価した。中央感作インベントリ(CSI)は、慢性疼痛患者における中枢感作に関連する症状を評価するために用いた。安静時および労作時の疼痛強度は数値評価尺度(NR)、神経因性疼痛のスクリーニングは Douleur Neuropathique 4(DN4) アンケートを用いた。オピオイド使用障害を診断するために、精神障害の診断および統計マニュアル(DSM-V)第5版における物質使用障害の診断基準を使用した。その他は、疼痛壊滅的尺度(PCS)、うつ病の自己評価アンケート(SRQ-D)、および状態特性不安尺度(STAI-1)を用いて評価した。統計的検定は、JMS Pro バージョン 14.2.0 を用いて行った。P<0.05 の値は、統計的有意性を示すとした。

20人の患者が本研究に参加し、これらの患者では欠落したデータはなかった。患者は、年齢63±12歳、男/女6人/14人、乳がん(2人)、肺がん(6人)、悪性中皮腫(7人)、骨髄腫(1人)、卵巣がん(1人)、膵臓がん(1人)、直腸がん(1人)であった。不眠症は、9人(45%)においてみられ、疼痛に対する中枢感作は2人(10%)でみられた。線形回帰分析では、AISスコアとCSIスコアの間に有意な相関関係が確認された(標準化ベータ= 0.646、決定係数= 0.417、P = 0.002)。

本研究がAISスコアとCSIスコアの間に有意な関連性を示したことは、がんサバイバーにおける不眠症と中枢感作が相関する可能性があることを示唆している。慢性がん性疼痛に対するオピオイド療法を受けているがんサバイバーにおいて、不眠症と中枢感作との間に有意な関連が存在する可能性が高いと考えられる。